

黙示録序言

黙示 默示とは隠れたことを表わすという意味で、ここでは天の奥義を明らかにすると言うよりは、むしろ、さまざまの形容をもつてこれを示すと言うに過ぎない。

本書の著者 これは自らヨハネと称して使徒であることを言わない。しかし第一章九節に、キリストのためにパトモス島じまにやらされた者とあって、ちょうど使徒ヨハネがドミニシャン帝の時にパトモス島に流されたと言う古伝に符合するだけでなく、本書の中にかかげた七教会宛ての書簡も、ヨハネがエフェゾに住んで小アジア諸教会をつかさどったと言う伝えに合い、なお古代の人々が一致して默示録は使徒ヨハネの著書であると言うのに合っている。

本書をしたためた場所および年代 たぶんヨハネの流されたパトモス島か、またはその島から帰つて留まつたエフェゾで、年代は紀元九三西暦九六年であろう。

目的 著者の目的でなく、むしろ本書を書きしるすことを命じ給うたキリストの目的である。すなわち信者の信仰を固め、その希望をふるい起こし、種々の困難に責められても確固として動かず、いよいよ勤行きんぎょうを固くしてキリスト教の勝利と救い主の来臨とを希望させることにある。

区分 初めに発端ほつたんがあつて（一章一八節）、次の本文は三編に分けられる。第一編は当時のことに関するもので、小アジア州の七つの教会に宛てて書き取らせ給うた七つの書簡をかかげ、賞賛したり、譴責けんせきしたり、獎励したり、訓戒したり、約束したり、威嚇いかくしたりする文を含んでい

る。その中でイエズス・キリストが教会に教え、命じ給うのが、人の子のように見え給う（一章九節）（三章二十二節）。第二編はイエズスが七つの出現をもつて未来にあるはずの事実をヨハネに示されたことをかかげるが、キリストは初め小羊の形をもつて見え給い、終わりに勝利者のよう見え給う（四章一節）（十九章十節）。第一の出現では七印をもつて封じられた巻き物が現われ（四章一節）（六章）、第一の出現では異なった二つの事がらがはさまれ（七章一）（八節、および九）（十七節）、第三の出現では七つのラッパがある（八）（十一章）。第四の出現では神が教会のために戦われる（十二）（十四章）。第五の出現では器に盛った神の怒りが地上に注がれ（十五）（十六章）、第六の出現では神と教会の敵たちを表わす大都会の滅亡が示され（十七章一節）（十九章十節）、第七の出現では、ついにキリスト御自ら戦つて、いっさいの敵を制し給う（十九章十一節）（二十二章五節）。終わりに末文がある（二十一章六）（二十一節）。

性質 初めと終わりは書簡の体裁であるが、地方の七教会に宛てた書簡の終わつたあとは少しも教会に宛てた体裁を備えないで、もっぱら未来のこととを予言する。しかも明確な言葉でなく、さまざまの幻または形容をもつて予言している。そもそも予言を解くことがむずかしいことは旧約を見ても明らかであつて、事が成就する時になつて、ようやく予言を悟るのである。その上、このような種類の予言は旧約聖書中にはたくさんあるが、新約にはただ默示録の一書があるだけである。このわけは、旧約の目的はもっぱら未来の贖いを希望させることにあつたが、新約ではすでにこの希望が成就してしまい、なお希望することは未來の救靈とキリストの来臨だけであるからである。予言は解きにくいものであるから、本書の解釈者は少ないはずであるのに、案外、

知、学力、信心をつくして解釈を試みた者はおびただしく、また、思いのままに想像し、愚痴をきわめた者も少なくない。その解釈は非常に興味深いようであるが、そうではない。見方によつて、どのようにでも説を立てられようし、紛々として到底一定するはずがないから、結局は、して試みるよりは、むしろ試みない方が賢い。しかし一応解釈者の趣意をかかげると、要するに主なものは三つある。第一の説は、默示録は教会の予言的略史で、書きしるした時代からキリスト再臨までのこと載せたと言うことにある。その中には、種々の形容をもつて示したことの大半はもうすでに成就じょうじゅしたと言う人もいれば、まだ成就しないと言う人もいるし、また人によっては教会の時代を七つに分ける人もいて、まちまちで同意しにくいものが多い。第二の説は、默示録の大部分は、遠い未来のことではなくて教会の初代に起るはずの事実、特にキリスト教がユダヤ教または異教に対して順次に勝っていく次第を示すと言うことにある。この説によると、本書の記すことは予言と言うより、むしろ既往きおうに属したと言わざにはいられないようである。第三の説は、默示録の二、三章は当時のことに関するが、四章から二十二章までの文は、もっぱら教会歴史の最後の時代を示し、その時の困難とキリストおよび教会の最後の勝利とを予言するものであると言うことにある。もしそうであるなら、事はもっぱら予言に属し、今までの事実によつて、これを照らそうとしてもそのかいのないことは明らかであると言えるだろう。

使徒聖ヨハネ黙示録

発^{ほつ}

端^{たん}

表題 1 イエズス・キリストの默示、すなわち必ず速かになるべきことを、そのしもべたちに明かさしめんとて神はイエズスに賜い、イエズスはまたその使を遣わして、そのしもべヨハネに示し給い、2 ヨハネは神の御言葉を証し、またイエズス・キリストの証明し給いしこと、すべておのが目撃せしことを証したるものなり。3 この予言の言葉を読み、かつ聞きて、これにしるしたることを守る人は幸いなり、そは時近ければなり。

宛て所および挨拶 4 ヨハネ「小」アジアにある七教会に「書簡を送る」。願わくは、現にましまし、かつてましまし、かつ來り給うべきものより、またその玉座の前にある七靈より、5 またイエズス・キリストより恩寵と平安とを汝らに賜わらんことを。すなわちイエズス・キリストは忠実なる証者、死者のうちより先立ちて生まれ給いし者、地上の王たちの君にましまし、われらを愛し給い、御血をもってわれらを罪より清め給い、6 われらをもってその父にてまします神のために國となし祭司となし給いし者にして、光榮と権威とこれにありて世々に限りなし、アメン。7 見よ、彼は雲に乗りて來り給う、すべての目および彼を刺し貫きし人々もこれを見ん、地上の万民、彼のゆえに嘆かん。しかり、アメン。8 現にましまし、かつてましまし、かつ來り給

うべき全能の神にてまします主のたまわく、われはアルファ¹なりオメガ²なり、初めなり終わりなり、と。

第一編 七教会に送る書簡

イエズス命じてヨハネに書をしたためさせ給う。9 汝らの兄弟にしてキリスト・イエズスにおいて患難と国と忍耐とをともにせるわれヨハネ、神の御言葉のため、およびイエズスを証し奉らんためにパトモスと言える島にありしが、10 ある主日にあたり、氣を奪わるがごとくになりて、11 わがうしろにラッパのごとき大いなる声を聞けり、11 いわく、汝、見るところを書にしるして、アジアなるエフェゾ、スマイルナ、ペルガモ、チアチラ、サルジス、フィラデルフィア、ラオディケアの七教会に送れ、と。

出現 12 われ、おのれに語れる声を見んとて顧みしが、顧みれば七つの金の燈台^{とうだい}あり、七つの金の燈台の中央にあたりて人の子^{*}のごときものあり、13 足までたれたる衣^{きぬ}を着^きし、胸に金の帯をしめ給い、14 御頭^{こう}と髪の毛とは白き羊の毛のごとく、また雪のごとく白く、御目は燃ゆる炎のごとく、15 両の御足は熱き炉³における青銅^{からかね}のごとく、御声は大水の音のごとく、16 右の御手には七つの星を持ち給い、御口より両刃^{もろは}のとき剣を出だし、御顔は日盛^{ひざか}りに照り輝ける太陽のごとし。

17 17 われこれを見るや、死せるがごとく御足もとに倒れしが、右の御手をわれにつけてのたまひけるは、恐るるなかれ、われは最初のものにして、また最終のものなり、18 われは生けるものにし

て死したりしものなり。見よ、われは世々に限りなく生きて死と地獄との鍵^{カギ}を持てり、19されば汝がすでに見しこと、現にあること、こののちあるべきこと、20またわが右の手に見し七つの星の奥義と七つの金の燈台の奥義とを書きしるせ、七つの星は七教会の天使にして、七つの燈台は七教会なり。

① ギリシア字母の首字。② ギリシア字母の最尾の字。

第二章 エフェソ教会への書簡 1 エフェソ教会の天使にかく書き送れ、右の御手に七つの星を持ち、七つの金の燈台の中央に歩み給うもののたまわく、2 われは汝の業^{わざ}と働きと忍耐とを知り、また汝が悪人を忍び得ざることと、自ら使徒と称しつつしからざる人々を試みてその偽れる者たるを認めしこと、3 汝の忍耐あることと、わが名のために患難を忍びてうまざりしこととを知れり。4 しかれども汝にとがむるところあり、すなわち汝は最初の愛を離せり、5 さればそのいすこより墮落せしかを思い、改心して最初の業^{きょう}をなせ。もし、しからずして改心せずば、われ汝のものとに至り、汝の燈台をそこより取り除かん。6 さりながら汝に長所あり、すなわちニコライ^{トマ}の業^{わざ}を憎めることにして、われもまたこれを憎めるなり。7 耳ある者は〔聖〕靈の諸教会にのたもうところを聞け、すなわち勝利を得たる人には、われわが神の樂園にある生命の木の実を食せしめん。

8 スミルナ教会への書簡 8 またスミルナ教会の天使にかく書き送れ、最初のものにして最終のものたり、かつ死したりしに生きえるもののたまわく、9 われは汝の患難と貧窮^{ひんきゅう}とを知れり、されど汝は富めり。また自らユデア人と称しつつ、しからずしてかえってサタン^{*}教会たる人々に

10 ののしらるるなり。10 受けんとする苦しみを一つも恐ることなけれ、見よ、悪魔は汝らを試み
んとて汝らの幾人を監獄に入るべく、汝らは十日の間、患難に会わんとす。汝ら死に至るまで忠
信なれ、しかばわれ生命の冠かんむりを汝に与えん。11 耳ある者は「聖」靈の諸教会にのたもうところ
を聞け、すなわち勝利を得たる人は第二の死²に寄せられじ。

12 ペルガモ教会への書簡 12 またペルガモ教会の天使にかく書き送れ、両刃もろはのとき剣*つるぎを持ち給え
るものたまわく、13 われは汝のいざこに住むかを知れり、すなわちサタン*の座のある所なり。
しかるに汝わが名を保ちて、わが忠信なる証人アンチバス³が汝らのうちなるサタンの住む所にて
殺されし時すら、汝はわれにおける信仰を否まさざりき。14 しかれども少しく汝にとがむべきことあ
り、すなわち汝の所にはバラアムの教えを保てる人々あり、彼は禁物きんもつを食せしめ、また私通しつうせし
めんためにつまずくものをイスラエルの子らの前に置くべしとバラクに教えおりしが、15 かくの
ごとく汝の地にニコライ党の教えを保てる人々あり。16 汝もまた改心5せよ、しからずんば、われ
速かに汝のもとに至り、わが口の剣をもって彼らと戦わん。17 耳ある者は「聖」靈の諸教会にの
たもうところを聞け、すなわち勝利を得たる人に、われ隠れたるマンナ6を与え、また白き石に新
しき名をしるして与えん、その名は白き石を受くる者のほかこれを知る者なし。

18 チアチラ教会への書簡 18 またチアチラ教会の天使にかく書き送れ、神の御子、すなわち御目
は炎のごとく、御足は青銅からかわのごとくにましますもののたまわく、19 われは汝の業わざと信仰と愛と務
めと忍耐と、またあの業の先の業より多きこととを知れり。20 しかれどもいささか汝にとがむ
べきところあり、すなわち汝は予言者と自称する婦人イエザベルの、わがしもべらを教え、かつ

21 まどわして私通しふうせしめ偶像くうぞうに獻げられしものを食せしむるをさしおけり。21 われかの婦人に改心⁷
 すべきいとまを与えたれど、あえてその私通より改心⁷せず、22 見よ、われ彼を床にふさしむべく、
 22 すべきいとまを与えたれど、あえてその私通より改心⁷せずば大いなる患難に会うべく、23 わ
 23 また彼とともに姦淫かんいんをなす人々にして、おのが業より改心⁷せずば大いなる患難に会うべく、23 わ
 れまた彼が子どもを打ち殺すべく、かくて諸教会はわが人の心腸をさぐる者たるを知るに至るべ
 24 く、われまた汝らにおののその業に応じて報ゆるところあらん。しかして汝ら、24 すなわちチ
 24 アチラにある他の人々に言わん、すべてかの教えを持たざる者、いわゆるサタンの奥義を知らざ
 る者には、われ他の荷を負わせじ。25 ただし、汝らが持てるところをわが来るまで保て、26 しか
 26-25 して勝利を得て終わりまでわが業ぎょうを守りたる人には、与うるに諸国民に対する権威をもってすべ
 し、27 彼は鉄の杖をもつてこれを治め、彼らは土器どきのごとくに碎かれん、28 なおわれにも、わが
 父より賜わりたるがごとし。しかしてわれまた、かの人に明けの明星みょうじょうを与うべし。29 耳ある者は
 〔聖〕靈の諸教会にのたもうところを聞け。

①ラテン訳では悔悛。②本書20・6、14、21・8 ③殉教者。④民数紀略25・1、2、31・16、ユダ書11 ⑤ラテン
 訳では悔悛。⑥出エジプト記16、ヨハネ6・31 ⑦ラテン訳では悔悛。⑧ラテン訳では、および。⑨あるいは牧し。

1

第二章

サルジス教会への書簡

1 またサルジス教会の天使にかく書き送れ、神の七靈と七つの
 星とを持ち給えるもののたまわく、われは汝の業わざを知れり、すなわち汝は生くるの名ありて、し
 2 かも死せるなり、2 肇戒して、まさに死せんとする残りを堅固ならしめよ、そはわれ汝の業が、
 3 わが神のみ前に円満ならざるを認むればなり。3 されば汝かつて受けしところ、聞きしところの
 いかなりしかを思い起こし、これを守りて改心¹せよ、汝、肇戒せんば、われ盜人のごとく汝の

⁴ もとに至るべく、汝はそのいづれの時に至るかを知らじ。 ⁴ さりながらサルジスにおいて、おのが衣裳いじょうを汚ざりし者、汝らのうちに数人あり、彼らは白衣びゃくえを着てわれとともに歩まん、そはこれに価する者なればなり。 ⁵ 勝利を得たる人はかくのことく白衣を着せらるべく、われその名を生命の名簿より消さず、わが父のみ前にも、その使たちの前にも、彼の名を宣告すべし。 ⁶ 耳ある者は〔聖〕靈の諸教会にのたもうところを聞け。

⁷ フィラデルフィア教会への書簡 ⁷ またフィラデルフィア教会の天使にかく書き送れ、聖にして信実にてましますもの、ダヴィードの鍵かぎを有し給いて、開き給えばたれも閉ざることなく、閉じ給えばたれも開くことなきもののたまわく、⁸ われは汝の業わざを知れり。見よ、たれも閉じ得ざる門を、われ汝の前に開きおけり、そは汝、力乏うつしといえども、わが言葉を守りてわが名を否まぜりしゆえなり。⁹ 見よ、われサタン教会のうちより自らユダヤ人と称しつしからざして偽れる人々を与あたう、見よ、われ彼らをして至りて汝の足もとに拝伏せしむべく、かくて彼らは、わが汝を愛したことを探るべし。¹⁰ 汝わが忍耐の言葉を守りしゆえに、われもまた汝を守りて、地上に住める人々を試みんために全世界に来るべき試みの時に、これをまぬかれしめん。¹¹ 見よ、われ速かに至る、汝がすでに持てるものを保ちて汝の冠かんむりをたれにも奪わることなけれ。 ¹² われ勝利を得たる人をして、わが神の聖殿における柱たらしめん、かくて彼は、もはや外に出することなかるべく、われ彼の上に書きしるすに、わが神のみ名と、わが神の都、すなわち天よりくだりたる新しきエルザレムの名と、わが新しき名とをもつてすべし。¹³ 耳ある者は〔聖〕靈の諸教会にのたもうところを聞け。

14 ラオティケア教会への書簡 14 またラオティケア教会の天使にかく書き送れ、アメンなるもの、
 15 神の造物の最初にして忠信真実にてましませる証者のたまわく、15 われ汝の業わざを知れり、すなわ
 ち汝は冷ややかなるにもあらず熱きにもあらざるなり、むしろ冷ややかに、あるいは熱くあらば
 や。16 されど汝は冷ややかにも熱くもあらずして、ぬるきがゆえに、われは汝を口より吐き出だ
 17 さんとす。17 けだし汝自ら、われは富めり、豊かにして乏しきところなしと言いつつ、その実は
 不幸にしてあわれむべく、かつ貧しく、かつめしいにして、かつ裸はだかなるを知らざるなり。18 われ
 汝に勧む、火にてためされし金を富まんためにわれより買え、また身にまといて汝が裸の恥を表
 19 わざざらんために白き衣裳いじょうを買え、また見ることを得んために汝の目に目薬を塗れ。19 われはわ
 が愛する人々を責め、かつこらすなり、されば奮發して改心せよ。³20 見よ、われ門前に立ちてた
 20 たく、わが声を聞きてわれに門を開く人あらば、われその内に入りて彼と晩ばんさんをともにし、彼
 21 もまたわれとともにすべし。21 勝利を得たる人をして、わが玉座にわれとともに坐するを得しめ
 22 んこと、なおわが勝利を得て、わが父とともにその玉座に坐せるがごとくなるべし。22 耳ある者
 は「聖」靈の諸教会にのたもうところを聞け、とのたまえり。

① ラテン訳では悔悛。② ラテン訳では与えん。③ ラテン訳では悔悛。

第二編 出現の書

第一項 七封印の巻き物

第一款 予 備 の 出 現

第四章 神の玉座

1 そののちわれ見たるに、おりしも天に開けたる門あり、しかしてわが初めにわれに語るを聞きしラッバのごとき声言いけるは、ここにのぼれ、われこののちになるべきことを汝に示さん、と。2 かくてわれ、たちまち氣を奪わたるがごとくなりしに、おりしも天に一^{いっ}玉座備えられ、その玉座の上に坐し給うものありて、3 その坐し給うものは碧玉^{へきぎょく}および赤じまめのうの形のごとく、また玉座のまわりに緑玉^{りょくぎょく}の形のごとき虹^{にじ}ありき。

2 四十人のおきな 4 さて玉座のまわりに二十四の高座あり、その高座の上には白衣^{びやくえ}をまといて頭に金冠^{きんかん}をいただける二十四人のおきな坐しおれり。5 かくて玉座より稻光^{いなひかり}とあまたの声と雷^{かみなり}と出でつつありしが、玉座の正面には輝く七つの灯^{ともしび}あり、これすなわち神の七靈なり。6 また玉座の前に水晶^{すいしょう}に似たるガラスの海あり、玉座の中央とまわりとに前後ともに目に満ちたる四つの動物ありき。7 第一の動物はししのごとく、第二の動物は子牛のごとく、第三の動物は人のごとき顔ありて、第四の動物は飛ぶわしのごし。

3 四つの動物 8 この四つの動物、おののおの六つのつばさありて、内外ともに目にて満ち、昼夜絶え間なく、聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、かつてましまし、今もましまし、また、まさに來り給うべき全能の神にてまします主よ、と言いおれり。9 かくてこの四つの動物、玉座に坐し給いて、世々に限りなく生き給うものに光榮と尊崇^{そんそう}と感謝とを歸し奉るに、10 二十四人のお

きな、玉座に坐し給うものののみ前に平伏し、世々に限りなく生き給うものを礼拝し奉り、おのが冠^{かんむり}を玉座の前に投じつゝ、¹¹主にてましますわれらの神よ、主こそは光榮と尊崇^{そんそう}と能力とを受け給うべけれ、そは御自ら万物を創造し給い、万物の存在して創造せられしは、み旨によればなり、
と言いおれり。

第二款 小羊および七封印^{しあいん}の巻き物

1 巻き物を開き得る者なし 1 われまた玉座の上に坐し給うものの右の御手の上に、内外に文字ありて七つの印をもって封ぜられたる巻き物を見、2 また一つの強き天使の声高く、巻き物を開きてその封印を解くに堪うる者はたれぞ、と布告するを見たり。3 しかも天にも地上にも地下にも、巻き物を開きてこれを眺むことだによくする者なかりき。

4 小羊これを開くことを得 4 かくてたれも巻き物を開きて見るにすら堪えたりと認めらるる者なきにより、われ大いに泣きいたりしかば、⁵ おきなの人われに言ひけるは、泣くなれ、見よやユダ族のしし、ダヴィドのひこばえ、勝利を得て巻き物を開き、その七封印を解くを得給うと。
6 賞賛せらる 6 われ見たるに、おりしも玉座と四つの動物との中央、おきなたちの中央に、ほ
ふられたるがどとき小羊立ちて、これに七つのつ^{*}のあり、また全世界に送られし神の七靈なる七つの目あり。7 小羊來りて玉座に坐し給うものの右の御手より巻き物を受けしが、⁸ その巻き物を受くるや四つの動物と二十四人のおきなとは小羊の前に平伏し、おのおの琴^{こと}「のどきもの」

9 また聖人たちの祈りなる香^{こう}の満ちたる金の香炉^{こうろ}を持って、9 新しき贊美歌を歌い、主よ、汝は巻
き物を受けてその封印を解くに堪え給えり、そは、ほふられ給いて御血をもつて神のために諸族、
10 諸語、諸民、諸国のうちより人々²を贖い、10 これをわれらの神のために王たらしめ祭司^{さいけいし}たらしめ
11 紿いたればなり、彼らは地上²を統治すべし、と言いおれり。11 われなお見たるに、玉座と動物と
12 おきなたちとのまわりにある、多くの天使の声を聞けり。その数、万々億々にして、12 声高く言
13 いけるは、ほふられ給いし小羊は権威と富有⁴と、英知と能力と、尊貴と光榮と祝福とを受くるに
堪え給うものなり、と。13 また天にも地上にも、地下にも海上にも、いざこにも被造物のことご
とく言えるを聞けり、玉座に坐し給うものと小羊とに祝福と尊貴と、光榮と権能と、世々に限り
なし、と、14 しかして四つの動物はアメンと言い、二十四人のおきなは平伏して、世々に限りな
く生き給うものを礼拝し奉れり。

①ラテン訳では開くや。②ラテン訳では、われらを。③ラテン訳では数百万。④ラテン訳では神性。

第三款 六封印解かる

第三章

第一封印 1 われまた見たるに、小羊、七封印の一つを解き給いしかば、四つの動物の

2 一つ雷のごとき声して、来りて見よ、と言えるを聞けり。2 また見たるに、おりしも一つの白馬
ありて、これに乗れるものは弓^{ゆみ}を持ち、かつ冠^{かんむり}を授けられ、勝ちて勝たんとて出でたり。

3 第二封印 3 「小羊」第一の封印を解き給いしかば、われ第二の動物の、来りて見よ、と言え

⁴ るを聞けり。4 しかしてまた一つの赤馬出で来りて、これに乗れるものは地上より平和を取り去りて人々をして相殺さしむることと、大いなる剣^{つるぎ}とを授けられたり。

⁵ 第三封印 ⁵ 「小羊」また第三の封印を解き給いしかば、われ第三の動物の、来りて見よ、と言えるを聞けり。さて一つの黒馬ありて、これに乗れるものは手に計りを持てり。⁶ かくて四つの動物の間に声のごときものありて、小麦^{ひとまず}¹一升一デナリオ、大麦^{みます}三升一デナリオなり、ぶどう酒と油とをそなうなれ、と言えるを聞けり。

⁷ 第四封印 ⁷ 「小羊」また第四の封印を解き給いしかば、われ第四の動物の声の、来りて見よ、と言えるを聞けり。⁸ おりしも死色^{じいろ}の馬ありて、これに乗れるものは名を死^{しにい}と言い、冥府^{よみ}そのうしろに従い、彼は剣と飢饉^{ききん}と死亡^{しほう}と地の猛獸とをもつて地上の人の四分の一を殺す権力を授けられたり。

⁹ 第五封印 ⁹ 「小羊」また第五の封印を解き給いしかば、われ神の御言葉のため、およびその¹⁰なしし証明のために殺されたる人々の魂、祭壇の下にあるを見たり。¹⁰ 彼ら声高く呼ばわりて、聖にして真実にてましませる主よ、いつまでか審判し給わずして、地に住める人々にわれらが血の復讐^{ふくしゅう}をなし給わざる、といおれり。¹¹ かくておののおの白き衣^{ころも}を授けられ、しばらく安んじて、おのれらのごとくに殺さるべき同じしもべと兄弟との数^{かず}の満つるを待て、と言われたり。

¹² 第六封印 ¹² 「小羊」また第六の封印を解き給いしかば、われ見たるに、おりしも大地震ありて、日は毛衣^{けごろも}のごとくに黒くなり、月は全面血のごとくなれり。¹³ しかして天より星の地上に落つること、あたかもいちじくの木の大風に吹きゆらるる時、なり遅れの実の落つるがごとし。

14 天は巻き物を巻くがごとくに去り、山と島とはことごとくその所を移され、15 地上の帝王ていおうと大人じんと、千夫長かぶこうと富豪ふこうと権力者と、また奴隸も自由なる者も、みな身を洞穴ほらあな、山の巖いわおの内に隠し、16 山と巖いわおとに向かいて言いけるは、汝ら、われらが上に落ちて玉座の上に坐し給うものの御顔と17 小羊の御怒りとを避けしめよ、17 けだし彼らの御怒りの大的なる日は来れり、たれか立つことを得べき、と。

①およそ三十せんに当たる銀貨。

第四款 中間の二つの出現

第七章 地上観 1 そののちわれ、四つの天使、地の四隅よすみに立てるを見しが、彼らは地の四方の風を引きとめ地上にも海上にもいかなる木の上にも吹かざらしめんとせり。2 このほかにまた一つの天使、生き給える神の印いんを持ちて東よりのぼるを見たり。この天使、海陸を害することを許されたる四つの天使に声高く呼ばわりて、3 言いけるは、われら、わが神のしもべたちの額に印ひたいするまで海にも陸くがにも樹木にも触ることなけれ、と。4 かくてわれ、イスラエルの子らの諸族ひたい中、印せられたる者の数かずを聞きしに、印せられたる者十四万四千人、5 すなわちユダ族のうちにて一万二千人印せられ、ルベン族のうちにて一万二千人印せられ、ガド族のうちにて一万二千人印せられ、6 アゼル族のうちにて一万二千人印せられ、ネフタリ族のうちにて一万二千人印せられ、マナッセ族のうちにて一万二千人印せられ、7 シメオン族のうちにて一万二千人印せられ、

レ、ヴィ族のうちにて一万二千人印せられ、イッサカル族のうちにて一万二千人印せられ、⁸ザ
ブロン族のうちにて一万二千人印せられ、ヨゼフ族のうちにて一万二千人印せられ、ベンヤミン
族のうちにて一万二千人印せられたるなり。

天上観 ⁹そののちわれ、たれも数うることあたわざる大群衆を見しが、諸国、諸族、諸民、
諸語のうちよりして、白き衣^{ころも}を着し、手に棕櫚^{しゅら}の葉を持ちて、玉座の前、小羊の目の前に立ち、
¹⁰声高く呼ばわりて言いけるは、救靈^{エカリ}は玉座に坐し給うわが神および小羊に帰す、と。¹¹玉座と
おきなたちと四つの動物とのまわりに立ちいたりし天使一同、玉座の前に平伏し、神を礼拝し奉
りて、¹²言ひけるは、アメン、祝福と光榮と、英知と感謝と、尊貴と能力と、世々に限りなくわ
が神に帰す、アメン、と。¹³時におきなの一人答えてわれに言いけるは、白き衣を着せるこの人
人はたれなるぞ、いづこより来れるぞ、と。¹⁴われ、わが君よ、汝こそ知れるなれ、と言ひしに
おきなわれに言いけるは、この人々は大いなる患難より來り、小羊の血におのが衣を洗いて白く
なしたる者なり。¹⁵ゆえに神の玉座の前にありて、その「聖」殿において日夜これに仕え奉り、
¹⁶また玉座に坐し給うものは彼らの上に幕屋を張り給うべし。¹⁷彼ら、もはや飢え渴くことなかる
べく、日光も熱氣も彼らに当たるべからず、¹⁷そは玉座の正面にましませる小羊、彼らを牧して、
これを生命の水の源^{みなもと}に導き給い、神は彼らの目よりすべての涙拭い給うべければなり、と。

① ラテン訳では住み。 ② ラテン訳では治めて。

第二項 七つのラツパ

第一款 予 備 の 出 現

第七封印

1 「小羊」第七の封印を解き給いしかば、天上静まりかえること半時間。

七つのラッパ 2 われまた見たるに、七つの天使、神のみ前に立ちて七つのラッパを授けられ、
 3 別にまた一つの天使、金の香炉こうろを持ち来りて香台こうだいの上に立ち、多くの香を受けられしが、これ
 4 諸聖人の祈りに加えて、神の玉座の前なる金の香台の上に献げんためなり。4 かくて香の煙は諸
 5 聖人の祈りとともに天使の手より神のみ前に立ちのぼりしが、5 天使、香炉を取り、これに香台
 6 の火を盛りて地に投げしかば、かみなり雷と声と稲光いなほかりと大地震と起こり、6 また七つのラッパを持つての七
 つの天使、ラッパを吹かん身がまえをなせり。

第二款 初めの六つのラッパ

7 第一のラッパ 7 かくて第一の天使ラッパを吹きしに血のまじりたる雹ひょうと火と起こりて地に降
 らされ、地の三分の一燃え上がり、樹木の三分の一燃え上がり、青草ことごとく焼きつくされた
 り。

8 第二のラッパ 8 第二の天使ラッパを吹きしに火の燃ゆる大いなる山のごときもの海に投げら
 れ、海の三分の一血に変じて、9 海の中に生ける被造物の三分の一死し、船の三分の二も滅びたり。
 10 第三のラッパ 10 第三の天使ラッパを吹きしに松明たいまつのごとくに燃ゆる大いなる星天より落ちて

川の三分の一と水の源みなもととの上に落ちたり。¹¹ この星は名を苦ヒガよもぎと言ひ、水の三分の一は苦ヒガよもぎのごとくになりて、水の苦ヒガなりしがために多くの人死せり。

第四のラッパ ¹² 第四の天使ラッパを吹きしに日の三分の一と月の三分の一と星の三分の一と打たれしかば、その三分の一は暗み、昼も三分の一光らず、夜もまた同じ。¹³ われなお見たるに天の中央を飛べる一のわし声高く、禍いなるかな、禍いなるかな、禍いなるかな、地上に住める人々、なおラッパを吹かんとする三つの天使の声によりて、と言えるを聞けり。

第五のラッパ ¹ 第五の天使ラッパを吹きしに、われ一つの星の天より地に落ちたるを見たり。さて彼は底なき淵あわの穴の鍵かぎを授けられ、² 淵の穴を開きしかば、大いなる炉ろの煙のとどき煙、穴より立ちのぼりて、日も空も穴の煙のために暗まされたり。³ また穴の煙よりいなご地上に出でて、地のさそりのとどき力を授けられ、⁴ 地の草、すべての青もの、およびいかなる樹木をも害することなく、ただおのが額に神の印を有せざる人々をのみ害すべきことを命ぜられた
⁵ り。⁵ ただし、これを殺すことなく、ただおのが額に神の印を有せざる人々をのみ害すべきことを命ぜられた
⁶ りの人を刺したる時の苦しみに等し。⁶ この時、人々死を求めて、しかもこれに会わず、死を望みて、しかも死は彼らを遠ざかるべし。⁷ かのいなごの形は戦いに備えたる馬に似て、頭がしらには金に似たる冠かんむりのごときものあり、顔は人の顔のごとく、⁸ 女の髪の毛のとどき毛ありて、歯はししの歯に等しく、⁹ 鉄の鎧よろいのごとき鎧ありて、つばさの音は多くの馬に引かれて戦場に走る車の音のとどく、¹⁰ なおさそりのとどき尾ありて、その尾に針あり、その力は五ヶ月の間人を害すべし。¹¹ このいなごをつかさどる王は底なき淵あわの使にして、名はヘブレオ語にてアバッドン、ギリ

12 シア語にてアポルリオンと言ひ、ラテン語「の意味」は破壊者なり。12 一つの禍い過ぎて、なお二つの禍い來らんとす。

13 第六のラッパ 13 第六の天使ラッパを吹きしかば、われ聞きたるに、神の御目の前なる金の香台の四隅より一つの声出で、14 ラッパを持てる第六の天使に言ひけるは、ユウフラテの大川のほとりにつながれたる四つの天使を許せ、と、15 かくて年月日時を期して人間の三分の一を殺さんとかまえたる四つの天使許されたり。16 騎兵の数は二億にして、われその数を聞けり。17さて、われ幻にその馬を見しが、これに乗れるものは緋色、紫色、硫黃色の鎧を着け、馬の頭はしの頭のごとくにして、その口より火と煙と硫黃と出で、18 この三つの禍い、すなわちその口より出する火と煙と硫黃とのために人間の三分の一殺されたり。19 その馬の力は口と尾とにあり、その尾は蛇のごとくにして頭を備え、これをもつて害を加うるなり。20 これらの禍いによりて殺されざりし人々は、なおその手の業より改心せずして悪鬼らを拝し、見聞き歩むことを得ざる金銀、銅木、石の偶像を拝することをやめず、21 その人殺し、その害毒、その私通、その窃取の罪よりも改心せざりき。¹

① ラテン訳では悔い改めず。

第三款 第七のラッパに先立てる中間の二出現

1 開きたる巻き物を持つてゐる天使 1 われまた見たるに、別に天よりくだる一つの強き天使



2 ありて、身には雲をまとい、頭には虹ヒビカあり、その顔は日のごとく、その足は火柱ヒヨウカラのごとく、2 手
 3 には開きたる小さき巻き物あり、右の足を海の上に、左の足を地の上に踏み、3 ししのほゆるが
 4 ごとき大いなる声して叫びしが、叫び終わりて七つの雷声カムナリを出だせり。¹ 4さて七つの雷声を出だ
 したる時、われこれを書きしるさんとせしに、天より声ありて、七つの雷の語りしことを封じて
 5 これを書きしるすことなかれ、とわれに言えるを聞けり。5 かくて前に見たりし海陸の上にまた
 6 がりて立てる天使、右の手をあげて天をさし、6 世々に限りなく生き給い、天とこれにあらゆる
 ものと、地とこれにあらゆるものとを造り給いしものをさして誓い
 7 言いけるは、もはや時あらざるべし、7 されど第七の天使の声を出だし、ラッパを吹き始むる時
 に至りて、神の奥義はそのしもべなる予言者たちをもつて幸いに告げ給いしがごとく成就すべし、
 8 と。8 また天より声聞こえて再びわれに語り、行きて海陸にまたがりて立てる天使の手より開き
 たる巻き物を取れ、と言いかば、われ天使のもとに至りて、われに巻き物を与えよ、と言いし
 9 に、彼われに言いけるは、9 巷き物を取りて食いつくせ、汝の腹を苦からしめんも、口には蜜の
 10 ごとく甘かるべし、と。10 かくてわれ天使の手より巻き物を受けてこれを食いつくししに、わが
 11 口にありては蜜のごとく甘かりしも、食いつくしてのち、わが腹は苦くなれり。11 またわれに言
 うものあり、汝は多くの民族と国民と、国語と国王につきて再び予言せざるべからず、と。

① ラテン訳では、もの言える。

1  二人の証人 1 かくてわれ杖ツツキのごとき計り葷ヨウを与えられて言われるは、起きよ、神
 2 の聖殿と祭壇と、そこに礼拝する人々とを計れ。2 されど殿外デンガイの庭はさしおきて、これを計ること

となれ、そは異邦人にゆだねられたればなり。しかして彼らは四十二カ月の間聖なる都を踏み
 荒さんとす。³ われわが二人の証人に力を与えん、かくて彼ら毛衣^{セトロム}を着て一千二百六十日の間予
 言すべし。⁴ 彼らは地の主のみ前に立てる二つのかんらん樹、二つの燈台なり。⁵ もしこれらを
 害せんとする人あらば、火その口より出でてその敵を滅ぼさん。もし彼らをそこなわんとする人
 あらば、かくのごとくにして滅ぼさるべし。⁶ 彼らは予言する間、雨をして降らざらしむべく、
 天を開ずる力あり、また水をして血に変せしめ、思うがままに幾たびもあらゆる天災をもって地
 を打つ之力あり。⁷ 彼らその証明を終えたらんのちは、底なき淵^{アハラ}よりあがる獸^{ウツボ}ありて、彼らと戦
 いをなし、勝ちてこれを殺すべく。⁸ その屍^{シカバヌ}は、たとえばソドマ^{*}ともエジプトとも名づけらるる
 大都會、すなわち彼らの主の十字架につけられ給いしところの巷^{チハシタ}に残らん。⁹かつ諸族、諸民、
 諸語、諸国に属する人、三日半の間その屍^{シカバヌ}を見るもこれを墓に収むるを許さじ。¹⁰ 地上に住める
 人はこれがために喜び樂しみ、かつ互いに礼物^{ルモウ}を贈らん、そは、かの二人の予言者地上の人を苦
 しめたればなり。¹¹ しかれども三日半ののちは、生命の靈、神よりして彼らに入り、彼ら足にて
 立ち、これを見たる人々は大いに恐れをいだきしが、¹² 天より大いなる声聞こえて、ここにのぼれ、
 と言ひしかば、彼ら雲に乗りて天にのぼり、敵らこれを見たり。¹³ なおその時、大いなる地震あ
 りて、町の十分の一は倒れ、七千人の人、地震のために殺され、残れる者は恐ろしさに堪えず、
 天の神に光榮を歸し奉れり。¹⁴ 第二の禍い過ぎ去りて第三の禍いまさに来らんとす。

1 第七のラッパ 15 第七の天使ラッパを吹きしかば、天に大いなる声響きて言ひけるは、この世
 の国はわが主とそのキリストとのものとなりたれば、世々に限りなく統治し給うべし、アメン、
 と。16 ここにおいて神のみ前におのが座に坐したりし二十四人のおきな、平伏して神を礼拝し、
 17さて言ひけるは、かつてましまし、今もましまし、かつ來り給うべき全能の神にてまします主
 よ、われら汝に感謝し奉る、そは、おのが大いなる能力をとりて統治し給えばなり。18 諸国民怒
 りを起こしたるに、主の御怒りまた来れり、かつ死者審判せられて、主のしもべなる予言者、聖
 人たち、および大小を問わず名をかしこめる人々に報いを与へ、地上を腐敗せしめたる人々を
 滅ぼし給う時来れり、と。19 かくて天において神の聖殿開け、神の契約の櫃^{ひつ}その聖殿に現われ、
 稲光^{いなみがり}と多くの声と地震と大いなる電^{のよ}と起これり。

① 謳賀^{けんせき}をもつての意。

第三項 神の勝利に歸すべき戦いを示す七つの印

第一款 婦人および龍^{りゆう}

1 第三章 婦人の出現 1 また天に大いなる印現われたり、すなわち日を着たる一人の婦人あ
 2 り、その足の下に月ありて、頭^{こうべ}には十二の星の冠^{かんむり}あり。2 子を宿して陣痛に会い、まさに生まん
 として叫びおれり。

3 龍の出現 3 また天に他の印現われたり、見よ、大いなる赤き龍ありて、七つの頭、十のつの
 4 あり、その頭には七つの冠あり、4 尾は天の星の三分の一を引きおりしが、これを地に投げ打ち、
 5 子を生まんとする婦人の前に立ちて、生まれなばその子を食らわんとかまえたり。5 婦人は万民
 を鉄の杖もて治むべき一人の男子を生みしに、その子は神の御もとにその玉座へ引き上げられた
 6 り。6 婦人は荒野あれのにのがれしが、ここに一千一百六十日の間養わるよう神より備えられたる所
 ありき。

7 天における戦い 7 かくて天に大いなる戦い起これり、ミカエルおよびその使たち龍と戦い、
 8 龍もその使らも戦いおりしが、8 龍、勝ちを得ずして天にそのあとすらも残らざりき。9 しかし
 9-8 て、かの大いなる龍、全世界をまどわせる蛇ヘビ、いわゆる悪魔またはサタン*なるもの投げおろされ
 10 たり。彼、地に投げおろされしかば、その使たちともに投げおろされたり。10 われまた大いな
 11 る声の天においてかく言えるを聞けり、われらの神の救いと、力と、國と、またそのキリストの
 権能とは、今ぞ至れる、そはわれらの兄弟たちを訴えて、われらの神のみ前に日夜彼らを訴えい
 12 たりしもの投げおろされたればなり。11 しかして兄弟たちは小羊の御血により、また、おのが証
 明の言葉によりてこれに勝ち、死に至るまでおのが生命いのちを惜しまざりき。12 このゆえに喜べや、
 13 天および天に住まえるものよ、禍いなるかな、地よ海よ、そは悪魔、おのが時のただしばしなる
 を知りて、大いなる怒りを含みつつ汝らにくだりたればなり、と。

14 13 龍、婦人を害せんとす 13 かくて龍は、おのが地に投げおろされたるを見て、男子を生みし婦
 14 人に追い迫りしが、14 婦人は荒野に飛ばんために大いなるわしのつばさを授けられしかば、おの

15 が所に至り、一年²と數年と半年^{はんねん}との間、龍の面前を離れてここに養われたり。15 しかるに龍はその口より水を出だして婦人のうしろより吹きかくること川のごとく、これを川に流さしめんとしたりしも、16 地は婦人を助け、口を開きて龍の口より吹き出だしたる水を飲みつくせり。17 龍は婦人を怒りて、その子孫のうち神の捷を守り、かつイエズス・キリストの証を有する人々と戦わんとて、行きて、18 海の砂の上に立てり。

①大天使。 ②原文には時。ダニエル7・25

第二款 海より起ころる獸

海より起ころる獸 1 われまた海より一つの獸ののぼるを見たり、そは七つの頭かしらと十のつのとありて、そのつののに上に冠かんむりあり、頭かしらの上に冒瀆ぼうどくの名あり。2 わが見し獸は豹ひょうのごとく、その足は熊くまの足のごとく、その口はししのごとくにして、龍はこれにおのが座1と大いなる権力とを与えたり。3 われまた見たるに、その一つの頭かしら、死ぬばかり傷つけられたれど、その死ぬべき傷いやされしかば、全世界感嘆してこの獸に従い、4 この獸に力を与えし龍を礼拝けいはいし、また獸を礼拝して言いけるは、たれかこの獸のごときものあらんや、たれかこれと戰うを得んや、と。5 しかしして大言たいげんと冒瀆ぼうどくとをはく口を与えられ、6 さて口を開きて神を冒瀆し、そのみ名と、その幕屋と、天に住めるものとを冒瀆せり。7 また聖人たちと戰い、かつこれに勝つことを許され、諸族、諸民、諸語、諸国に対する権力を与えられ、8 かくて地上

に住める人にして世の初めより殺され給いたる小羊の生命の名簿に名をしるされざる人、みな、
かの獸を礼拝せり。¹⁰⁻⁹人、耳あらば聞け、¹⁰とりこに引きし人は自らとりこに行くべく、劍にて
殺しし人は劍にて殺さるべし、聖人たちの忍耐と信仰とここにあり。

第三款 地より起ころる獸

地より起ころる獸 ¹¹われまた別に地より一つの獸のあがるを見しが、小羊のごときつ、二つあ
りて龍のごとくにもの言いおり、¹²先の獸の前において、すべてこれと等しき力を表わし、地と
地に住める人とをして死ぬばかりの傷のいやされし先の獸を礼拝せしめたり、¹³また人の目の前
に天より火を地にくださしむるほどの大いなる印をなし、¹⁴獸の前になすことを得しめられたる
印をもって地に住める人をまどわし、これに勧めて、刀の傷はありながら、なお生きながらえし
獸の像を造らしめ、¹⁵この獸の像に生命を与え、かつもの言うことを得させ、この獸の像を拝せ
ざる人を殺す力を与えられたり、¹⁶また大小と貧富と、自由の身と奴隸とを問わず、すべての人
に、あるいは右の手、あるいは額に印章を受けしめ、¹⁷この印章もしくは獸の名、もしくはその名
の数をしるされたる人々のほか、売り買ひすることを得ざらしめたり。¹⁸知恵はここにおいてか
要せらる、知識ある人は獸の数を数えよ、獸の数は人の数にして、その数は六百六十六なり。

第四款 小羊および童貞者

第十四章 小羊、聖人とともに立ち給う 1 われまた見たるに、おりしも小羊、シオン山に立ち
 2 給い、そのみ名および父のみ名を額にしるされたる十四万四千人これとともにあり。2 われまた
 天よりの声を聞きしが、大水の声のごとく、また大いなる雷の声のごとくにして、またこのわが
 3 聞きし声は琴ひきのその琴を弾ずるがごとし。3 かくて彼ら、玉座の前、四つの動物とおきなた
 ちとの前において新しき贊美歌のごときものを歌いおりしが、地上より贖われたる、かの十四万
 4 四千人のほか、たれもこの贊美歌を唱うることあたわざりき。4 彼らは女に触れず汚されざる
 者、けだし童貞者たるなり。彼らはいすこにもあれ小羊の行き給う所に従い、人間のうちより初
 5 穂として神と小羊とのために贖われたる者にして、5 その口に偽りありしことなく、神の玉座の
 御前に汚れなき者なり。

第五款 三つの天使、神の宣告を伝う

6 また見たるに別に天の中央を飛べる一つの天使あり、地上に住める人と、諸国、諸族、諸語
 7 諸民とに福音を告げんために永遠の福音を携え、7 声高く言ひけるは、汝ら主を恐れてこれに尊
 榮を歸し奉れ、けだしその審判の時は至れり、天地と海と水の源とを造り給えるものを礼拝し奉
 れ、と。8 また別に一つの天使、そのあとに従いて言ひけるは、倒れたり、倒れたり、私通のた
 9 めに起こせる怒りの酒を万民に飲ませし、かの大的なるバビロネは、と。9 また第三の天使、彼
 らのあとに従いて声高く言ひけるは、もし獸とその像とを挙し、おのが額もしくは右の手にそ

10 印章を受けたる人あらば、10 彼もまた神の御怒りの酒、すなわち御怒りの杯に物をまじえずして盛りたる酒を飲むべく、また聖なる天使たちの前および小羊のみ前に火と硫黄とをもつて苦しめらるべし、11 しかしてその刑罰の煙は世々に限りなく立ちのぼり、獸とその像とを拝せし人々と12 彼の名の印章を受けし者どもとは、夜昼休みなかるべし。12 神の捷とイエズスにおける信仰とを保てる聖人たちの忍耐はここにあり、と。13 かくて天より声ありて、われにかく言えるを聞けり、書きしるせ、幸いなるかな、今より主において死する死人、「聖」靈のたまわく、しかり、彼らがその働きを休まんためなり、そはその業これに従えばなり、と。

第六款 人の子および刈り取り

14 また見たるに、おりしも白き雲ありて、その雲の上には人の子のごときもの、頭に金の冠をいただき、手にとき鎌かまを持ちて坐しおれり。15 また別に一つの天使、「聖」殿より出でて雲の上に坐せるものに向かい、声高く呼ばわりけるは、地上の穀物こくもつは熟したるがゆえに刈り取るべき時は来れり、汝その鎌を入れて刈り取れ、と。16 かくて雲の上に坐せるもの、その鎌を地に入れしかば地の面おもては刈り取られたり。17 また別に一つの天使、天にある「聖」殿より出でしが、彼もまたとき鎌を持ちて。18 また別に火をつかさどる權威を有せる一つの天使、香台より出でて、とき鎌持てるものに向かい声高く呼ばわりて言ひけるは、地上のぶどうは熟したるがゆえに、汝、とき鎌を入れてぶどうのぶさを刈り取れ、と。19 かくて天使、そのとき鎌を地に入れて地上のぶ

²⁰ どうを刈り取り、神の御怒りの大きいなるしぶり桶に入れ、²⁰ そのしぶり桶は市外において踏みつけられしが、血、しぶり桶より出でて馬のくつわにとどくほど、七十五里¹の間に広がれり。

①原文には一千六百スタジオ。スタジオはおよそ百間(けん)に当たる。

第七款 罪いを有せる七つの天使

第十一章 1 また見たるに、天に大にして不思議なる印あり、すなわち七つの天使ありて最後の七つの禍いを有せり、けだし神の御怒りが、これにて全うせられたるなり。² なお見たるに、火のまじれるガラスの海のごときものありて、³ 獣と、その像と、その名の数^{かず}とに勝ちたる人々ガラスの海の上に立ち、神の琴^{こと}を持ちて、³ 神のしもべたるモイゼの贊美歌、および小羊の贊美歌を歌いて言ひけるは、全能の神にてまします主よ、大にして不思議なるかな、主のみ業^{わざ}、万世の王よ、正しくして誠なるかな、主の道。⁴ 主よ、たれか汝を恐れ奉らず、み名をあがめ奉らざらんや、そは汝のみ聖¹にましまして汝の審判の明らかなるにより、万民来りてみ前に礼拝し奉らんとすればなり、と。

第四項 七つの器^{うつわ}

予備の出現 5 そののち、われまた見たるに、おりしも天に証明の幕屋^{まくや}の〔聖〕殿開けて、⁶ 七

つの禍いを有せる七つの天使、清くして輝ける亞麻布あまふをまとい、胸に金の帶をしめて〔聖〕殿セイドウより出でしが、⁷四つの動物の一つは、世々に限りなく生き給う神の御怒りの満てる七つの金の器カヒを七つの天使に与えしかば、⁸〔聖〕殿は神の稜威みいやとその能力とによりて煙をもって満たされ、七つの天使の七つの禍いの終わるまで、たれも〔聖〕殿に入ることあたわざりき。

^①ラテン訳では良善。

第十四章 1われまた大いなる声の〔聖〕殿より出でて、七つの天使にかく言えるを聞けり、汝ら行きて神の御怒りの七つの器「のもの」を地上に注げ、と。

第一の器 2かくて第一の天使、行きてその器「のもの」を地上に注ぎしかば、獸の印章じょうとうを有せる人々およびその像を挙したる人々の身に悪性のはなはだしき腫物しゅもつ生じたり。

第二の器 3第二の天使、その器「のもの」を海上に注ぎしかば死人の血のごとくになりて海にある生きもの、ことごとく死せり。

第三の器 4第三の天使、その器「のもの」を川および水の源みなもとに注ぎしかば変じて血となれり。
5かくてわれ、水をつかさどる天使のかく言えるを聞けり、現にましまし、またかつてましまし
6し主よ、汝は正義にてまします、かくのごとく審判し給えるものよ、汝は聖にてまします、
7だし人々は汝の諸聖人、諸予言者の血を注ぎたれば、汝、彼らに血を与えて飲ましめ給えり、彼らはこれに価する者なればなり、と。7また別の天使の祭壇よりかく言えるを聞けり、しかし、全能の神にてまします主よ、眞実にして正義なるかな、汝の審判、と。

第四の器 8第四の天使、その器「のもの」を太陽に注ぎしかば、激しき暑さをもって人々を

9 焼き恼ますここを許され、9人々激しき暑さのために焼かれて、かかる禍いの上に権力を有し給える神のみ名をののしり、かつ改心せずして光榮を神に帰し奉らざりき。

第五の器 10 第五の天使、その器「のもの」を、かの獸の座の上に注ぎしかば、獸の国、暗闇となりて、人々苦しみのあまりに、おのが舌したをかみ、11その苦しみと禍いとのために天の神をのしり、おのが業わざより改心せざりき。

第六の器 12 第六の天使、その器「のもの」をユウフラテの大川の上に注ぎしかば、その水をからして東方の諸国王のために道を備えたり。

中間の出現 13 また見たるに、龍の口と、獸の口と、偽予言者の口とより、かわずのごとき三つの汚らわしき靈出でたり。14 これ印をなせる惡魔あくまの靈にして、全世界の國王のもとに至り、全能の神の大的なる日の戦いのために彼らを集めんとす。15 見よ、われは盜人ぬすびとのごとくにして来る、16 肅戒して裸はだかに歩まず、恥を見られざらんために、おのが衣ころもを保てる人は幸いなり。16 かの靈、ヘブレオ語にてアルマゲドンと言える所に諸国王を集めべし。

第七の器 17 第七の天使、その器「のもの」を空中に注ぎしかば、大的なる声〔聖〕殿より、しかも玉座ぎょくざより出でて言ひけるは、事すでにれり、と。18 かくて稲光いなみかりと声と雷かみなりと大地震と起こりしが、この地震は人の地上にありしこの方、かつてあらざりしほどに大的なりき。19 さて大都會三つに裂かれ、異邦人の諸都會倒れて、大的なるバビロネは神のみ前に思い出でられ、激しき御怒りの酒を盛りたる杯さかずきを飲ましめられんとし、20 島ごとごとく去りて山も見えずなり、21 タレントほどの大きさなる雹ひょう、天より人に降りかかりしかば、人々雹の禍いのために神をののしれり。

これ、その禍い、はなはだしく大いなればなり。

①ラテン訳では悔い改め。②十一貫あまり。

第五項 大いなるバビロネの処罰

第十五章 バビロネおよび非キリスト 1さて、七つの器うつわを持てる七つの天使の一つ來りてわれに言ひけるは、来れ、われ汝に示すに、多くの水の上に坐せる大淫婦の宣告をもつてせん。2地上の諸国王これと姦淫かんいんを行ない、地に住める人々その淫乱いんらんの酒に酔いたりき、と。3かくてわれ、氣を奪われ、かの天使に荒野あらのに携えられて見たるに、緋色ひいろの獸に乗りたる一人の女あり、獸は身内冒瀆うちぼうそくの名をもつておおわれ、七つの頭かしらと十のつとおのあり。4女は緋色、紫色むらさきいろの服を着し、金、宝石、真珠しんじゅをもつて身を飾り、手には憎むべきものと、その淫乱いんらんの汚れとに満てる金の器うつわあり。5その額ひたいには書きしるされたる名あり、いわく「奥義おくぎ、大いなるバビロネ、地上の淫婦いんふらと憎むべきこととの母」と。6この女を見るに、諸聖人の血およびイエズスの殉教者たちの血に酔えるものなれば、われ、これを見て大いに驚けり。7天使われに言ひけるは、何のゆえに驚くぞ、われ、この女の奥義と、七つの頭かしらと十のつとおのありて、これを乗せたる獸の奥義とを汝に語らん。8汝の見し獸は、かつてありしも今あらず、のちには底なき淵きもよりのぼりて滅びに至らん。地上に住みて世の開闢かいびくより以後、生命の名簿に名をしるされざる人々は、かつてありしも今はあらずして、のちに現わるべき、かの獸を見て驚き怪しまん。9ここにおいてか知識と鋭敏えいびんとを要す。七つの

10 頭は女の坐せる七つの山なり、また七人の国王なり。10 五人はすでに倒れて一人は存し、なお一人はいまだ来らず、來りたらん時は、しばし留まるべし。11 かつてありしも今あらざる獸は、その第八番にして七人より出でて滅びに至るなり。12 また汝の見し十のつのは十人の国王にして、彼らはいまだ國を得ざれども、獸のうちに一時王のごとき權威を受くべく、13 彼らは同一の計略をなし、おのが能力と權威とを獸に渡さん。14 彼らは小羊と戰うべく、しかして小羊は彼らに勝ち給うべし。彼は諸主の主、諸王の王にましまして、これとともにおる人々は召されし者、選まれし者、忠実なる者なればなり、と。15 天使またわれに言ひけるは、淫婦の坐せる所に汝が見し水は、これ諸國、諸民、諸語なり。16 また獸において汝が見し十のつのは、ついにかの淫婦を憎み、これを恼まし、かつ裸^{はだか}ならしめ、その肉を食らい、火をもって彼を焼きつくすべし。17 けだし神、彼らにみ旨を行なうことと、同一の計略をなして神の御言葉ことごとく成就するまで、おのが国を獸に渡すこととを志さしめ給いしなり。18 また汝が見し女は、地上の国王をつかさどる大都会なり、と。

①ラテン訳では私通。

1 第八章
バビロネの没落^{ぼつらく}および滅亡^{めつぼう} 1 そののち、また別に一つの天使、大いなる權威をもつて天よりくだるを見しが、地上はその栄光をもつて照らされたり。2 彼、力ある声にて呼ばわり言ひけるは、倒れたり、倒れたり、大いなるバビロネは。すでに惡魔の住み家となり、すべての汚れたる靈の巣窟^{すきくつ}となり、すべて汚れて憎むべき鳥の巣^すとなれり。3 けだし、万民はその姦淫^{かんいん}が起こさする怒りの酒を飲み、地上の國王らは彼と姦淫^{かんいん}をなし、地上の商人らは彼がおどりの勢い

4 によりて富豪となりたるなり、と。4 また別に天より声して、かく言えるを聞けり、わが臣民よ、
 5 汝ら彼がうちより出でて、その罪にあづからず、その禍いを受けざるようにしてよ。5 そは彼の罪
 6 は天に達し、主、彼が不義を心に留め給いたればなり。6 彼が汝らになししごとく、汝ら彼にな
 7 し、その業に応じて倍してこれを報い、彼がくみ与えし杯はこれに倍してくみ与えよ。7 彼が自
 ら誇りて快樂に暮らししと同じほどなる苦しみと悔みとを与えよ、そは彼が心のうちに、われは
 8 女王の位に坐して寡婦にはあらず、しかも悔みを見じ、と言えばなり。8 ゆえにその禍い、すな
 わち死と、悔みと、飢えと、にわかに来りて、彼は火にて焼きつくさるべし、彼を審判し給える
 神は全能にてましませばなり。

9 諸国王の悲しみ 9 彼と姦淫して樂しみ暮らしし地上の諸国王、彼が焼かるる煙を見て、そ
 10 の上を泣き、かつおのが胸を打ち、10 その苦しみを恐れて、はるかに立ちのきて言わん、禍いな
 11 るかな、禍いなるかな、かのバビロネの大都會、かの堅固なる都會よ、そは汝の刑罰一時に至り
 たればなり、と。

11 商人の悲しみ 11 また地上の商人泣きて、彼が上を悲しむべし、そはおのれの商品を買うべき
 12 もの、すでにこれあらざればなり。12 その商品は金銀、宝石、眞珠、亞麻布、緋色布、絹物、紫
 13 布、種々の香木、およびいっさいのぞうげ細工、佳木、青銅、鉄、大理石の諸器物、13 また肉桂、
 14 香料、香油、乳膏、ぶどう酒、麦粉、小麦、駄獸、羊、馬、四輪車、人の体と魂などなり。14
 「バビロネよ」汝の好みし果物は汝を去り、いっさいの珍味、華美の品々は、滅びて汝より離れ、
 15 以後はこれを見出ださざるべし。15 これらのものを商いて富豪となりし人々は、バビロネの苦し

みを恐れて、はるかに立ちのき、泣き悔みて。¹⁶言わん、禍いなるかな、禍いなるかな、かつて
亞麻布、緋色、紫色の服を着し、金、宝石、真珠をもつて身を飾りたる、かの大都會よ、と。¹⁷
これ、さしも莫大なる富の一時に消え失せたればなり。

船員の悲しみ ¹⁸またいっさいの船長、航海せる人々水夫、または海上に働く人々、はるか
に立ちのきて、その火事の煙を見て呼ぼわり言ひけるは、いかなる都會か、この大都會には似た
る、と。¹⁹しかして彼らは、ちりをおのが頭にかぶりて泣き悔み、叫びて言ひけるは、禍いなる
かな、禍いなるかな、そのおごりによりて、すべて海上に船を持ちたる人々を富ましめたる、か
の大都會よ、そは一時に荒れはてたるなり、と。²⁰天および聖人、使徒、予言者たち、彼が上を
喜びておどれ、けだし神、汝らが「受けし」処分を彼において復讐し給いしなり。

全滅の特色 ²¹また一つの強き天使、大いなるひきうすのごとき石を海に投げて言ひけるは、
かの大都會バビロネは、かくのごときはずみをもつて投げられ、再び見出ださることあらじ。
²²今よりのちは汝のうちに、琴を弾じ、樂を奏し、笛を吹き、ラツバをならすものの声、再び聞こ
こえず、種々の藝術の職人、汝のうちに再び見出だされず、ひきうすの音、汝のうちに再び聞こ
えず、²³灯の光、汝のうちに再び輝かず、花婿花嫁の声、全く汝のうちに聞こえざるべし。そは
汝の商人すでに地の諸侯のごとくになりて、万民汝の魔力にまどい、²⁴かつ予言者、聖人、およ
び地上に殺されしといっさいの人の血、彼において見出だされたればなり、と。

①奴隸のこと。

1 第十九章 天における喜び 1 そののちわれ、大群衆の声のごときものの天においてかく言える

2 を聞けり、アレルヤ、救靈^{ナガリ}と光榮と能力とは、わが神に歸す、2 けだし、その淫亂^{いんらん}をもって地上
 を腐敗せしめたる大淫婦^{だいいんぶ}を審判し給いしものの審判は誠にかつ正しくして、おのがしもべらの血
 3 の報いを彼の手に求め給いしなり、と。3 また重ねて言ひけるは、アレルヤ、彼が煙、立ちのぼ
 4 りて世々に限りなし、と。4 しかして二十四人のおきなと四つの動物と平伏して、玉座に坐し給
 5 う神を礼拝し奉り、アメン、アレルヤ、と唱えたり。5 かくて声、玉座より出でて言ひけるは、
 6 すべて神のしもべたる者、また大小を問わずこれを恐るる者よ、わが神を贊美し奉れ、と。6 わ
 れまた大群衆の声のごとく、大水の声のごとく、大いなる雷^{カムナリ}の声のごときものの、かく言えるを
 7 聞けり、アレルヤ、けだし、わが全能の神にてまします主は統治し給えるなり。7 いざ、われら
 は喜びおどりて、これに光榮を帰し奉らん、けだし小羊の婚礼の期至りて、その花嫁すでに準備
 8 を整え、8 清くして輝ける亞麻布^{あまふ}を身に装うことを得しめられたり、と。亞麻布とは聖人の正し
 9 き業^{わざ}なり。9 「天使」またわれに言ひけるは、小羊の婚宴^{こんえん}に召されし人々は幸いなるかなと書け、
 10 と。またわれに言ひけるは、これぞ神の誠の御言葉なる、と。10 かくてわれ、これを礼拝せんと
 してその足もとに平伏しければ、またわれに言ひけるは、しかすることなけれ、われは汝および
 イエズスの証を有せる汝が兄弟たちと同様のしもべなり、神をば礼拝し奉れ、そは予言の靈はイ
 エズスを証し奉ればなり、と。

第三編 キリストおよび聖会の決勝

第一項 キリストの決勝

11 勝利者およびその軍隊 11また見たるに、おりしも天開けて一つの白馬しらうまあり、これに乗れるは忠信者ちゆうしんしゃ、真実者と称せらるる者にして、正義をもつて審判し、かつ戦い給い、12その目は炎のごとく、頭にはあまたの冠かんむりをいただき、またしるせる名ありて、自らのほか、たれもこれを知る者なく、13また血にまみれたる衣服をまとい給いて、名を神のみ言葉と称す。14また天にある諸軍は白馬に乗り、白く清き亞麻布あまさふをまといて、これに従いおれり。15しかして諸民を擊つべき両刃のとき剣つきざ、彼の口より出で、彼は鉄の杖つえをもつて諸民を治め給うべく、また自ら全能の神の御怒りのしぶり桶おけを踏み給い、16衣の上股こうもの所にその名しるされて、諸王の王、諸主の主、とあり。

17 獣および諸王の敗北 17また見たるに、一つの天使、太陽のうちに立ちて、空の中央を飛べるいっさいの鳥に向かい、声高く呼ばわりて言ひけるは、汝ら来りて神の大いなる饗宴きょうえんに集まれ、18諸国王の肉、千夫長らの肉、権力者の肉、馬とこれに乗れる人々との肉、すべて自由なる者、奴隸たる者、大人小人の肉を食らうべし、と。19また見たるに、かの獣と地上の諸国王とその軍隊とすでに集まりて、白馬しらうまに乗り給えるもの、およびその軍隊と戦わんとしたるに、20獣は捕えられ、かつてその前にいろいろの印をなし、これによりて獣の印章を受け、その像を拝みし人々をまどわしし偽予言者ぎよげんしゃもまた、ともに捕えられ、二つながら生きたままにて硫黄いおうの燃ゆる火の池に投げ入れられたり。21その他の者は、みな白馬に乗り給えるものの口より出ずる劍にて殺さ

れ、もろもろの鳥、飽くまでその肉を食らえり。

① あるいは牧し。



龍の敗北

1 また見たるに一つの天使、底なき淵の鍵と大いなる鎖とを手に持て天よりくだり、2 かの龍、すなわち悪魔サタン^{*}なる古き蛇を捕え、一千年を期してこれをつなぎ、3 底なき淵に投げ入れてこれを閉じ込め、封印^{ほういん}をその上になせり。これ一千年の終わるまで諸民をまだわざさらしめんためにして、そののちは、しばし解き放たるべし、4 われまた列座を見たるに、これにつくものありて裁判権を賜わり、またイエズスの証明のため神の御言葉のために首切られし人々の魂と、かの獸^{けもの}をも、その像をも拝まず、その印^{ひだい}章をおのが額または手に受けざりし人々と、みな生き返りて、一千年の間キリストとともに王となれるを見たり。⁵ その他⁶の死人は、すべて一千年の終わるまで生き返らず、これすなわち第一の復活なり。⁶ 幸いなるかな、聖なるかな、この第一の復活にあずかる人。かかる徒輩^{ともがら}においては第二の死は権力を有せず、かえて彼らは神およびキリストの司祭として、一千年の間これとともに王たるべし。⁷ 一千年終わ¹りてのちサタン^{*}その獄舎^{ごくしゃ}より放たれ、出でて地の四方の人民、ゴグ²およびマゴグをまどわし、戦いのためにこれを集めん、その数³は海の真砂^{まさご}のごとし。⁸ しかして彼ら地の全面にのぼり、聖徒たちの陣営と最愛の町とを囲みしが、⁹ 火、天よりくだりて彼らを焼きつくし、彼らをまどわしたる悪魔は火と硫黃^{いおう}との池に投げ入れられたり。ここにおいて、かの獸と、¹⁰ 偽予言者と、世々に限りなく昼夜苦しめらるべし。

11 最終の審判 11 また見たるに、大いなる白き玉座ありて、これに坐し給うものあり、地と天と

12 はその前を逃げ去りて、その場所すら見出だされざりき。12 また見たるに、死せし人々、大小ともに玉座の前に立ちて、あまたの書籍開かれ、また別に一つの書籍開かれしが、これ生命の名簿にして、死者はみな書籍にしるされたる事がらにより、めんめんの業に従いて審判せられたり。13 かくて海はそのうちにありし死者を出だし、死も冥府よみもまたそのうちにありし死者を出だし、おののおのその業に従いて審判せられ、14 冥府も死も火の池に投げ入れられしが、これ第二の死にして、15 生命の名簿にしるされざりし人々もまた火の池に投げ入れられたり。

①永遠の死の意。 ②聖会の敵を表わす言葉。エゼキエル38、39 ③本書16・14、19・19 ④永遠の死の意。

第二項 聖会の決勝

新天地 1 われまた新しき天と新しき地とを見たり、けだし先の天と先の地とは過ぎ去りて、海もすでにあらざるなり。

新エルザレム 2 われヨハネまた、聖なる都会新しきエルザレムが、あたかもその夫のために飾れる花嫁のごとく備わりて、神より天あまくだるを見たり。3 また大いなる声の玉座より来るを聞けり、いわく、見よ、神の幕屋まくやは人々とともにあり、神、彼らとともに住み給いて、彼らその民となり、神御自ら彼らとともにましまして、その神となり給わん。4 また神、彼らの目より涙をことごとくぬぐい去り給い、こののちは死あることなく、悔みも叫びも苦しみも更にこれあらざるべし、そは前のこと、すでに去りたればなり、と。5 また玉座に坐し給うもののたまひけるは、

見よ、われ万事を新たにす、と。またわれにのたまひけるは、汝、書きしるせ、そはこの言葉は
 6 信すべくして誠なればなり、と。6 またわれにのたまひけるは、事すでになれり、われはアルフ
 アなり、オメガなり¹、初めなり、終わりなり、われ、かわく人をして生命の水の源^{みなもと}より価なく飲
 7 むことを得しめん。7 勝利を得たる人は、これらのものを有して、われその神となり、彼わが子
 8 となるべし。8 されどすべて卑怯なる者、不信仰なる者、憎むべき者、人を殺せる者、私通をな
 せ者、魔術を行なう者、偶像を崇拜する者、またすべて偽りを言う者は、火と硫黄との燃ゆる
 9 池においてその報いを受くべし、これ第一の死なり、と。9 また七つの最後の禍いの満てる器を
 持ちたる七つの天使の一つ、来りてわれに語り言ひけるは、來れ、われ小羊の配偶者^{はいくわしゃ}たる花嫁を
 10 汝に示さん、と。10 かくて、わが氣を奪いて、われを大いにして高き山に携え、聖なる都エルザ
 11 レムが神より天くだるを示せり。11 すなわち神の榮光を有して、その灯は水晶^{ともしやすいじょう}のごとくに透き通
 12 れる碧玉^{へきぎょく}のごとき宝石に似たり。12 また十二の門を備えたる大いにして高き城壁あり、その門に
 13 十二の天使ありて、しるされたる名あり、すなわちイスラエルの子らの十二族^{*}の名なり。13 東に
 14 三つの門、北に三つの門、南に三つの門、西に三つの門あり。14 また町の城壁に十二の土台あり
 て、小羊の十二使徒の名これにしるされたり。

15 その測量^{そくりょう} 15 かくてわれと語れるものは、町とその門と城壁とを計るために金の葦^{よし}の測量竿^{さお}を
 16 持ちたりしが、16 町は四角に立ちて、長さ広さ相等しく、天使その金の葦をもつて町を計りしに、
 17 五百六十五里^り²にして、長さ高さ広さ相等し。17 また城壁を計りしに、二百三丈^{じょう}³あり、人の計りに
 して、また天使の計りなり。

19-18

その材料 18 その城壁は碧玉よりなり、町は清きガラスに似たる純金にして、19 町の城壁の土台は、あらゆる宝石をちりばめ、第一の土台は碧玉、第二は青玉、第三は玉すい、第四は緑玉、第五はサルドニクス、第六は赤じまめのう、第七は貴かんらん石、第八は緑柱玉、第九は黄玉、第十はクリゾ・プラズ、第十一はヒヤシント、第十二は紫水晶なり。21 十二の門は十二の真珠にして、おののの門は一つの真珠よりなり、町の巷^{ちまた}は透き通れるガラスのごとき純金なり。

その特色 22 この町には「聖」殿あるを見ず、そは全能の神にてまします主および小羊は、そ^のの「聖」殿にてましませばなり。23 またこの町は日月に照らさるるを要せず、そは神の栄光これ^を照らし、小羊その灯^{ともしづか}にてましませばなり。24 諸国民、彼が光によりて歩むべく、地上の国王たち、おのが光榮と尊崇^{そんそう}とをこれにもたらすべく、25 その門は終日閉ずることなかるべし、そはここには夜なればなり。26 これには諸國民、光榮と尊貴^{そんき}とをもたらすべく、27 清からざる者、憎むべきことを行なう者、偽りをなす者はこれに入らず、小羊の生命の名簿にしるされたる人々のみこれに入るべし。

① 本書1・8を見よ。② 原文には一万二千スタジオ。スタジオは、およそ百間に当たる。③ 原文には百四十四肘^{あしゆう}。

第二章 生命の川および木 1 天使またわれに示すに、水晶のごとく透き通れる生命の水の川の、神および小羊の玉座より流るるをもつてせり。2 町の巷^{ちまた}の中央および川の両岸^{りょうがん}に生命の木あり、十一の実を結びて、月ごとに一つの実を出だし、この木の葉もまた万民をいやすべし。3 いかなる呪いも今はあることなく、神と小羊との玉座そのうちにありて、そのしもべたちこれに仕え奉るべく、4 彼らその御顔を見奉り、神のみ名その額^{ひだり}にあるべし。5 もはや夜あることなく、

灯ともしびの光をも日の光をも要することなかるべし、そは主にてまします神、彼らを照らし給えばなり。かくのごとくにして彼らは世々に限りなく王たるべし。

末文

天使の保証 6 天使われに言ひけるは、この言葉は信ずべくして誠なり、予言者たちの靈を賜える主にてまします神は、遠からずしてなるべきことを、そのじもぐらに示さんために、その天使を遣わし給いしなり。7 見よ、われ速かに来らん。この書の予言の言葉を守る人は幸いなるかな、と。

ヨハネの保証 8 これらのことを見聞きしたる者は、われヨハネにして、見聞きしたるのち、9 これらのことわれに示せる天使の足もとに平伏して礼拝せんとせしに、9 彼、われに言ひけるは、しかすることなかれ、われは汝および汝の兄弟たる予言者たち、ならびにこの書の予言の言葉を守る人々と同様のしもべなり、神をば礼拝し奉れ、と。10 またわれに言ひけるは、この書の予言の言葉を封ずることなかれ、そは時近ければなり。11 害する人はいよいよ害し、汚れにある人はいよいよ汚れ、正しき人はいよいよ正しく、聖なる人はいよいよ聖となるべし。

イエズスの保証 12 見よ、われ速かに來り、報いを携えておののおのその業わざに従いてこれに報いんとす。13 われはアルファなり、オメガなり¹、最初のものなり、最終のものなり、原因なり、終局なり。14 生命の木にあずかる権を得んため、門より町に入らんために、小羊の御血におのが衣こうも

15 を洗う人は幸いなるかな。15 犬、魔術を行なう者、淫乱なる者、人を殺す者、偶像を崇拜する者、
 16 すべて偽りを愛してこれをなす者は外にあるべし、16 われイエズス、使を遣わして、諸教会にお
 いてこれらのことを汝らに証明せしめたり。われはダヴィドのひこばえにして末なり、輝ける明
 けの明星みょうじゆうなり。17 靈および花嫁、來り給えと言えり。聞く人もまた、來り給えと言うべし。かわ
 く人は来れ、欲する人は価なく生命の水を受けよ。

18 この書につきての制裁せいさい 18 われはすべてこの書の予言の言葉を聞く人に保証す、もしこれに加
 19 うる人あらば、神はこの書にしるされたる禍いをこれに加え給わん。19 もしこの書の予言の言葉
 を省く人あらば、神は生命の名簿より、また聖なる都より、またこの書にしるせることより、
 その受くべき分を省き給わん。

20 結束 20 これらのことを証明し給えるもののたまわく、しかり、われ速かに来る、と。アメン、
 21 主イエズス來り給え。21 願わくは、わが主イエズス・キリストの恩寵、汝ら一同とともにあらん
 ことを、アメン。

①本書1・8を見よ。②キリスト。本書1・2